

地域社会活性化のための公共（財）事業の進め方を考える

富永技術士事務所 フェロー会員 ○ 富永 眞生

21世紀型公共（財）事業の進め方は時代の動きとともに大きく変わりつつある。筆者らの研究グループは2001年に、研究成果を「21世紀、建設産業はどう変わるか」¹⁾と題する共同著作として世に問うた。以降、2001年5月、2002年8月、2003年1月の3回にわたり、中央工学校主催「国土政策フォーラム・パネル討論会（土木学会CPD認定プログラム）」を通じて、各位に公共（財）事業の進め方の啓蒙活動を幅広く続けている。

筆者はこれら一連のパネル討論会にコーディネーターとして参画し、討論をまとめてきた。パネル討論会はずねに「地域と公共（財）事業」をテーマにして進められ、討論内容は多岐にわたっているが、新しい国土政策の展開にとって重要かつ興味深い方針を示唆してきた。そこで2003年1月に行われたパネル討論会²⁾の中から要旨を紹介しつつ筆者の私見を加えて本特別セッションに提供したい。

パネラー（いずれも役職と敬称略）を以下のように依頼、構成した。（政）岩井 國臣の基調講演、（官）谷口 博昭、（民）有岡 正樹、（NPO）川村 健一、（学）八木 信幸、（メディア）西村 隆司、そして（コンサル）筆者といった顔ぶれである。これからの公共（財）事業の進め方を討論するのに、多方面から実践するパネラーにご登場いただけたことを最初に感謝しておきたい。

1. 公共（財）事業を取り巻く環境の激変、成長の時代から成熟の時代へ

- ・ 公共（財）事業は地域社会の生活と文化にとって必要なものである
- ・ Social Capital（社会資本）がハードからソフトへ移りつつある
- ・ 国民の暮らし、地域・国土を豊かにするには個と公の参加と責任も重要である
- ・ 住民参加によって自然環境を保持、創造しながらの公共事業は継続可能である
- ・ NPOの力を引き出そう、海外の先進国では成功例が目につく
- ・ 土木技術者の役割分担が大きく変わってきている、地域住民の求める技術者像は？
- ・ 地域社会崩壊の国民的不安、教育レベルから地域社会の復活を始める必要がある
- ・ 官・学（とくに若い感性）連携によって地域を創る、住環境、国土を整備する
- ・ 民間（とくに費用を分担する）の参加を促すPFI、PPPに政治の支援が始まった

2. いろいろな事例や体験の報告より

- ・ 長年続いているイベントや100年以上前から遺っている公共（財）の価値を認める
- ・ 既存の公共（財）の保全、維持補修、補強、改良、保存、復元、再利用、活用・・・
- ・ 「道の駅」は全国に700カ所以上実現中、東海道53次を見直す動きも
- ・ 住民参加による大阪御堂筋のにぎわい創出実験、東京日本橋ルネッサンスなど
- ・ アメリカ（デンバー都市再生、ポートランド公園事業など）、オーストラリア（シドニー環状道路）、日本（新潟・上越市民プラザ、六日町総合運動公園、東京・調布保谷線、平和島運河、埼玉・黒目川改修、青森・下北半島街起し・・・）など
- ・ 都市再生のための環状道路の整備も重要な公共（財）事業である
- ・ そして都市河川の整備や水上交通ネットワークづくりも急ぐ

3．現状の課題と将来に向けての期待³⁾

- ・ 人口減、シニア、団塊、ポスト団塊そして若者参加の交流をもっと活発にしよう
- ・ 都市と農山漁村（地域）との共生、連携、交流の始まり、ビジター産業の役割である
- ・ 地域活性化には魅力的な「地域戦略」を創り出すことが必要となる
- ・ そのためには日本人の心や感性、タマ（モノに対する）に訴える哲学、場所＋行動＋響きあう感動が織り込まれていることが重要だろう
- ・ 建設産業は公共（財）事業を通じて地域サービス産業の一翼となり、地域のリーディング産業を目指そう
- ・ 国際化時代（外からの交流をもっと受け入れよう、海外へ 1500 万人、海外より 500 万人の差を埋めなければ）、ビジター産業の活性化とネットワーク型国際的地域社会づくり
 ＜Global-Localization という言葉も出現＞ を進めよう
- ・ NPO、住民参加、PI（パブリックインボルブメント）、PPP、PFI、土地税制改正などの動きから 5 - 10 年後の国土政策は大きく変わる
- ・ 公共（財）事業を実行するためには「行政」-「地域住民」-「民間事業者」-「NPO」の間をつなぐ役割を果たす人材が求められる時代になった、土木技術者の出番だろう
- ・ でも個々の主張する利害や流れに埋没しない倫理観と哲学をもった新しいタイプの土木技術者、リーダーシップと勇気と自信を兼備した土木技術者、地域住民から信頼される土木技術者でなければならない
- ・ やるべきことは多い、一人一人がそれぞれの立場で小さなことからでも勇気をもって、自信をもって始めよう

4．力強いリーダーシップを培うには

リーダーシップはいろいろな問題をじっくり考えることによって培われる。都市と地域、生産と消費、歴史の教え、伝統文化とハイテク文化、自然と文明、知識と経験、遊びと学習、技術文明と精神文明、モノとタマ、公と個、世界と日本、競争と静観、いろいろなリスク、環境のサステナビリティ、多様性の中の混沌・・・ときには哲学的思考にも入り込もう。

情報化社会が求める公共（財）とは？ 人生の豊かさとは？ 土木技術者の生きる感動とは？ 地域人々との響き合いとは？ 美しい自然環境は人間の心にやすらぎをもたらす！ 人間の QOL(生きる値打ち)を決めるものは何だろうか？

若い世代の土木技術者に期待することがあまりにも多いが、ともに頑張っていこう。

【参考文献】

- 1) 松尾稔監修 21世紀、建設産業はどうかわる 鹿島出版会 2001
- 2) 中央工学校 国土政策フォーラム II 地域と公共事業（CD-ROM 版）2003
- 3) 富永眞生 50年後の国づくりに向けて、4つの視点より200年のスパンで考える
 平成 14 年 土木学会全国大会 特別セッション SS-002 2002